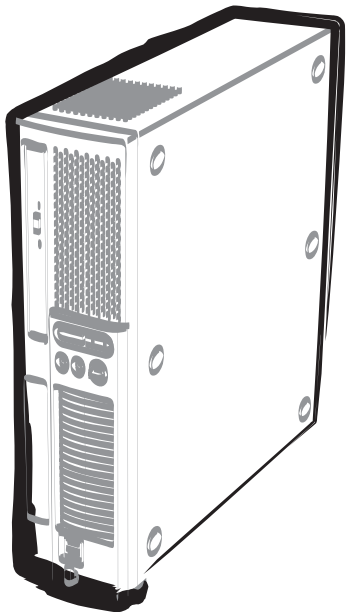
NEC



NEC Expressワークステーション
Express5800シリーズ

Express5800/51Lg
ユーザーズガイド

2010年　7月　初版

ONL-550_011_01-51Lg-000-00-1007

商標について

EXPRESSBUILDERとESMPRO、ExpressPicnicは日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Windows NT、MS-DOSは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Pentiumは米国Intel Corporationの登録商標です。ATは米国International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。FastTrakは米国PROMISE TECHNOLOGY INC.の登録商標です。LSIおよびLSIロゴ・デザインはLSI社の商標または登録商標です。Adobe、Adobeロゴ、Acrobatは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の登録商標または商標です。DatalightはDatalight, Inc.の登録商標です。ROM-DOSはDatalight, Inc.の登録商標です。
その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

オペレーティングシステムの表記について

Windows Server 2008 R2はWindows Server® 2008 R2 operating systemの略称です。
Windows Server 2008 はWindows Server® 2008 Standard operating systemおよびWindows Server® 2008 Enterprise operating systemの略称です。
Windows Server 2003 x64 EditionsはWindows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating systemおよびWindows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system、またはWindows Server® 2003, Standard x64 Edition operating systemおよびWindows Server® 2003, Enterprise x64 Edition operating systemの略称です。
Windows Server 2003はWindows Server® 2003 R2, Standard Edition operating systemおよびWindows Server® 2003 R2, Enterprise Edition operating system、またはWindows Server® 2003, Standard Edition operating systemおよびWindows Server® 2003, Enterprise Edition operating systemの略称です。
Windows 7はWindows® 7 Professional opeating systemの略称です。Windows VistaはWindows Vista® Business operating systemの略称です。Windows XP x64 Editionは、Windows® XP Professional x64 Edition operating systemの略称です。
Windows XPはWindows® XP Home Edition operating systemおよびWindows XP Professional operating systemの略称です。
Windows 2000はWindows® 2000 Server operating systemおよびWindows® 2000 Advanced Server operating system、Windows® 2000 Professional operating systemの略称です。
Windows NTはWindows NT® Server network operating system version 3.51/4.0およびWindows NT® Workstation operating system version 3.51/4.0の略称です。
Windows MeはWindows® Millennium Edition operating systemの略称です。
Windows 98はWindows®98 operating systemの略称です。Windows 95はWindows®95 operating systemの略称です。
Windows PEはWindows® Preinstallation Environmentの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

© NEC Corporation 2010

このユーザーズガイドは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

⚠ 使用上のご注意（必ずお読みください）

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。また、本文中の名称については本書の「各部の名称と機能」の項をご参照ください。

安全にかかわる表示について

本製品を安全にお使いいただくために、このユーザーズガイドの指示に従って操作してください。
このユーザーズガイドには、装置のどこが危険でどのような危険に遭うおそれがあるか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています（本装置に印刷されている場合もあります）。
ユーザーズガイド、および警告ラベルでは、危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されています。

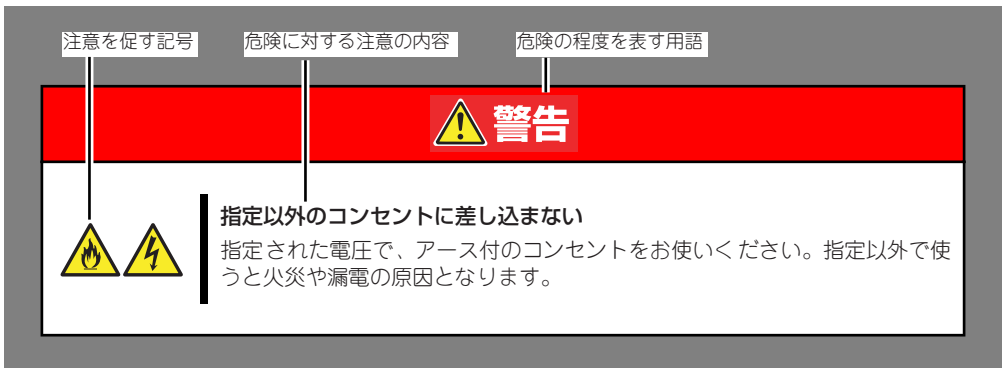
⚠警告 人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。

⚠注意 火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

⚠	**注意の喚起**	この記号は危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	（例） （感電注意）
🛇	**行為の禁止**	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	（例） （分解禁止）
●	**行為の強制**	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	（例） （電源プラグを抜け）

（ユーザーズガイドでの表示例）



本書と警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれのあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指がはさまれてけがをするおそれがあることを示します。		レーザー光による失明のおそれがあることを示します。
	高温による障害を負うおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意･警告を示します。
	爆発や破裂による傷害を負うおそれがあることを示します。		けがをするおそれがあることを示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解･修理･改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	火気に近づけないでください。発火するおそれがあります。		ぬれた手で触らないでください。感電するおそれがあります。
	水や液体がかかる場所で使用しないでください。水にぬらすと感電や発火のおそれがあります。		指定された場所には触らないでください。感電や火傷などの傷害のおそれがあります。

行為の強制

	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
	必ず接地してください。感電や火災のおそれがあります。		

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明についてはiiiページの『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

警告

人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本装置は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。

煙や異臭、異音がしたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに電源を OFF にして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

針金や金属片を差し込まない

通気孔や光ディスクドライブのすきまから金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

注意

海外で使用しない

本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。

装置内に水や異物を入れない

装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ電源を OFF にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

電源・電源コードに関する注意事項

警告

ぬれた手で電源プラグを持たない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。

アース線をガス管につながない

アース線は絶対にガス管につながないでください。ガス爆発の原因になります。

電源プラグを接続したままアース線の取り付けや取り外しをしない

アース線の取り付け / 取り外しは電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源を OFF にしても電源プラグを接続したままアース線に触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。

注意

指定以外のコンセントに差し込まない

指定された電圧で、アース付のコンセントをお使いください。指定以外で使うと火災や漏電の原因となります。また、延長コードが必要となるような場所には設置しないでください。本装置の電源仕様に合っていないコードに接続すると、コードが過熱して火災の原因となります。
クラス0Ｉのアース線付のＡＣコードセットを使用する場合は、接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

たこ足配線にしない

コンセントに定格以上の電流が流れることによって、過熱して火災の原因となるおそれがあります。

ケーブル部分を持って引き抜かない

ケーブルを抜くときはコネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜いてください。ケーブル部分を持って引っ張ったりコネクタ部分に無理な力を加えたりするとケーブル部分が破損し、火災や感電の原因となります。

中途半端に差し込まない

電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

⚠注意

指定以外の電源コードを使わない

本装置に添付されている電源コード以外のコードを使わないでください。電源コードに定格以上の電流が流れると、火災の原因となるおそれがあります。
また、電源コードの破損による感電や火災を防止するために次の注意をお守りください。

- コード部分を引っ張らない。
- 電源コードを折り曲げない。
- 電源コードをねじらない。
- 電源コードを踏まない。
- 電源コードを束ねたまま使わない。
- 電源コードをステープラなどで固定しない
- 電源コードをはさまない。
- 電源コードに薬品類をかけない。
- 電源コードの上にものを載せない。
- 電源コードを改造・加工・修復しない。
- 損傷した電源コードを使わない。（損傷した電源コードはすぐ同じ規格の電源コードと取り替えてください。交換に関しては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。）

添付の電源コードを他の装置や用途に使用しない

添付の電源コードは本装置に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となるおそれがあります。

設置・装置の移動・保管・接続に関する注意事項

⚠注意

腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない

腐食性ガス（塩化ナトリウム、二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する場所に設置し、使用しないでください。また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。装置内部のプリント板が腐食・ショートし、火災の原因となるおそれがあります。ご不明の点は販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

指定以外の場所に設置・保管しない

本装置を次に示すような場所や本書で指定している場所以外に置かないでください。火災の原因となるおそれがあります。

- ほこりの多い場所。
- 給湯器のそばなど湿気の多い場所。
- 直射日光が当たる場所。
- 不安定な場所。

電源プラグを差し込んだまま本装置内蔵用オプションやインタフェースケーブルなどの取り付けや取り外しをしない

本装置内蔵用オプションやインタフェースケーブルの取り付け/取り外しは電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源を OFF にしても電源プラグを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。

指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、弊社が指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。
また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。

お手入れ・内蔵機器の取り扱いに関する注意事項

警告

自分で分解・修理・改造はしない

本書に記載されている場合を除き、絶対に分解したり、修理・改造を行ったりしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

光ディスクドライブの内部をのぞかない

光ディスクドライブはレーザーを使用しています。電源が ON になっているときに内部をのぞいたり、鏡などを差し込んだりしないでください。万一、レーザー光が目に入ると失明するおそれがあります（レーザー光は目に見えません）。

リチウムバッテリやニッカドバッテリ、ニッケル水素バッテリを取り外さない

本装置内部にはリチウムバッテリが取り付けられています（オプションデバイスの中にはリチウムバッテリやニッケル水素バッテリを搭載したものもあります）。バッテリを取り外さないでください。リチウムバッテリやニッケル水素バッテリは火を近づけたり、水に浸けたりすると爆発するおそれがあります。

また、バッテリの寿命で装置が正しく動作しなくなったときは、ご自分で分解・交換・充電などをせずにお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れや本装置内蔵用オプションの取り付け / 取り外し、装置内ケーブルの取り付け / 取り外しは、本装置の電源を OFF にして、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源を OFF にしても、電源プラグを接続したまま本装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。
また、電源プラグはときどき抜いて、乾いた布でほこりやゴミをよくふき取ってください。ほこりがたまったままで、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

電源プラグを接続したままアース線の取り付けや取り外しをしない

アース線の取り付け / 取り外しは電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源を OFF にしても電源プラグを接続したままアース線に触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。

⚠注意

高温注意

本装置の電源を OFF にした直後は、内蔵型のハードディスクドライブなどをはじめ装置内の部品が高温になっています。十分に冷めたことを確認してから取り付け / 取り外しを行ってください。

中途半端に取り付けない

電源ケーブルやインタフェースケーブル、ボードは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

⚠注意

雷がなったら触らない

雷が発生しそうなときは電源プラグをコンセントから抜いてください。また電源プラグを抜く前に、雷が鳴りだしたら、ケーブル類も含めて装置には触れないでください。火災や感電の原因となります。

ペットを近づけない

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。

装置の上にものを載せない

本装置が倒れてけがや周辺の家財に損害を与えるおそれがあります。

光ディスクドライブのトレーを引き出したまま放置しない

引き出したトレーの間からほこりが入り誤動作を起こすおそれがあります。また、トレーにぶつかりけがをするおそれがあります。

ヘッドフォンを耳にあてたまま接続しない

ヘッドフォンを耳にあてたままヘッドフォンジャックに接続しないでください。耳を痛めるおそれがあります。また、接続前にボリュームが大きくなっていないことを確認してください。

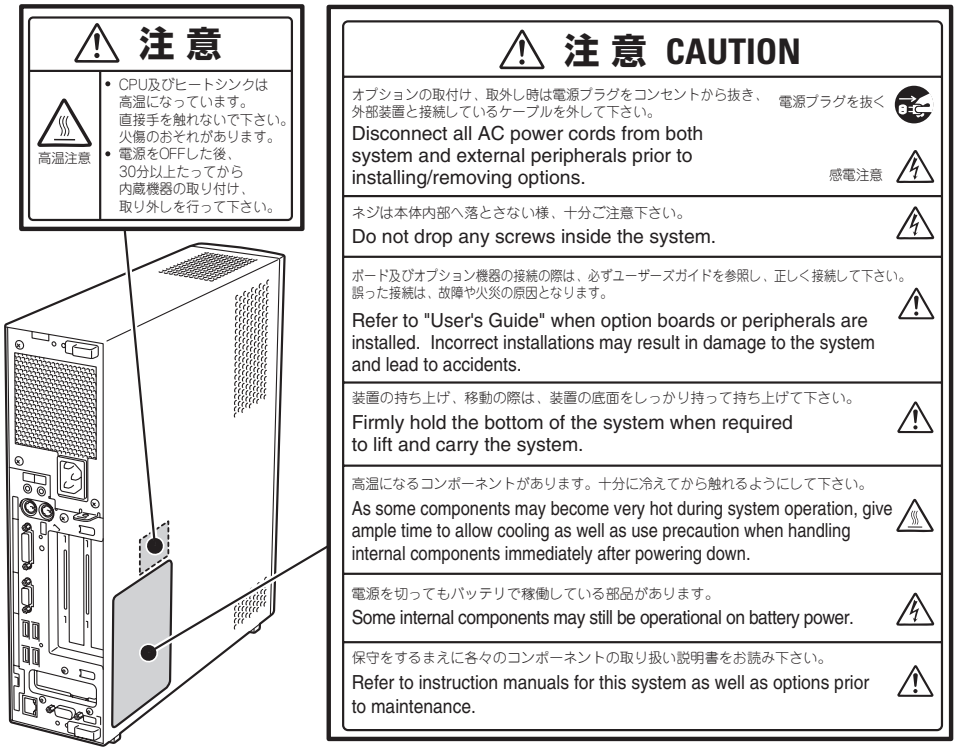
巻き込み注意

本装置の動作中は底面（装置を縦置きにした場合）にある冷却用ファンの部分に手や髪の毛を近づけないでください。手をはさまれたり、髪の毛が巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

警告ラベルについて

本装置内の危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが表示されています（警告ラベルは本装置に印刷されているか、貼り付けられている場合があります）。これは本装置を取り扱う際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです（ラベルをはがしたり、塗りつぶしたり、汚したりしないでください）。もしこのラベルが貼り付けられていない、はがれかかっている、汚れている、本装置に印刷されていないなどしているときは販売店にご連絡ください。

※ 装置内部の部品に貼り付けられています。



取り扱い上のご注意

本装置を正しく動作させるために次に示す注意事項をお守りください。これらの注意を無視した取り扱いをすると本装置の誤動作や故障の原因となります。

- 本装置が正常に動作できる場所に設置してください。詳しくは126ページを参照してください。
- AC入力電圧が100Vのコンセントに添付の電源コードを接続してください。
- 周辺機器へのケーブルの接続/取り外しは本装置の電源をOFFになっていることを確認し、電源プラグをコンセントから外した後に行ってください。
- 電源のOFFは、本装置のアクセスランプが消灯しているのを確認してから行ってください。
- 本装置の電源を一度OFFにした後、再びONにするときは10秒以上経過してからにしてください。
- 本装置を移動する前に電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 標準装備の光ディスクドライブで音楽CDを再生する場合は、デジタル再生で使用するか、Windows Media Playerを使用して再生してください。
- 定期的に本装置を清掃してください（清掃は271ページで説明しています）。定期的な清掃はさまざまな故障を未然に防ぐ効果があります。
- 落雷等が原因で瞬間的に電圧が低下することがあります。この対策として、無停電電源装置等を使用することをお勧めします。
- 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、光ディスクドライブにおける再生の保証はいたしかねます。
- 次の条件に当てはまる場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。
  - 装置の輸送後
  - 装置の保管後
  - 装置の動作を保証する環境条件（温度：10℃～35℃・湿度：20%～80%）から外れた条件下で休止状態にした後

    システム時計は毎月1回程度の割合で確認してください。また、高い時刻の精度を要求するようなシステムに組み込む場合は、タイムサーバ（NTPサーバ）などを利用して運用することをお勧めします。
    システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本装置を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。
  装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

- 本装置、内蔵型のオプション機器、バックアップ装置にセットするメディア（テープカートリッジ）などは、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。保管した大切なデータや資産を守るためにも、使用環境に十分になじませてからお使いください。
  参考：冬季（室温と10度以上の気温差）の結露防止に有効な時間

  ディスク装置：約2～3時間
  メディア　：約1日

- オプションは本装置に取り付けられるものであること、また接続できるものであることを確認してください。たとえ本装置に取り付けや接続ができても正常に動作しないばかりか、本装置が故障することがあります。

- オプションは弊社の純正品をお使いになることをお勧めします。他社製のメモリやハードディスクドライブには本装置に対応したものもありますが、これらの製品が原因となって起きた故障や破損については保証期間中でも有償修理となります。

ヒント

保守サービスについて

本装置の保守に関して専門的な知識を持つ保守員による定期的な診断・保守サービスを用意しています。
本装置をいつまでもよい状態でお使いになるためにも、保守サービス会社と定期保守サービスを契約されることをお勧めします。

- 本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

Windows 7/Windows Vista使用時の留意事項

Windows 7/Windows Vista ご利用の際は、従来のWindows XPに比べて次の点が異なることにご留意ください。

1.システムフォントがJIS2004対応となります

Windows 7 、Windows Vista ではシステムフォント[*1]、およびIME（かな漢字変換モジュール）がJIS2004（JIS X 0213:2004）対応となります。JIS2004 ではWindows XPで採用しているJIS90（JIS X 0208:1990）に比べて文字数が拡張されており、かつ一部文字の字体が変更されております。そのため、従来のJIS90環境と混在した場合、拡張された文字が表示/印刷されなかったり、字体が変わって表示/印刷されたりする場合があります。JIS90 環境を使用するためには、マイクロソフト社より提供されるJIS90互換フォント[*2]を適用し、かつIME（かな漢字変換モジュール）の設定により変換候補の文字をJIS90の範囲に絞り込む必要があります。

*1 Windows XPでも提供されていた「MS明朝」、「MS P明朝」、「MSゴシック」、「MS Pゴシック」、「MS UI Gothic」の5書体に加え、Windows Vista より新規追加された「メイリオ」。

*2 「メイリオ」についてはJIS90互換フォントは提供されません。

2.Web ブラウザが異なります

Web ブラウザがWindows 7ではInternet Explorer8（以下IE8）、Windows Vista ではInternet Explorer7（以下IE7）になります。従来のIE6に比べて表示仕様の一部が変更されているため、Webサイトによっては正しく表示できない場合があります。業務システムなどでご利用になる場合はご注意ください。

健康を損なわないためのアドバイス

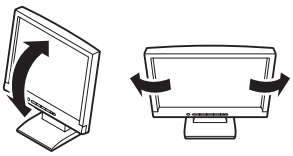
コンピュータ機器を長時間連続して使用すると、身体の各部に異常が起こることがあります。コンピュータを使用するときは、主に次の点に注意して身体に負担がかからないよう心掛けましょう。

よい作業姿勢で

コンピュータを使用するときの基本的な姿勢は、背筋を伸ばして椅子にすわり、キーボードを両手と床がほぼ平行になるような高さに置き、視線が目の高さよりもやや下向きに画面に注がれているという姿勢です。『よい作業姿勢』とはこの基本的な姿勢をとったとき、身体のどの部分にも余分な力が入っていない、つまり緊張している筋肉がもっとも少ない姿勢のことです。
『悪い作業姿勢』、たとえば背中を丸めたかっこうやディスプレイ装置の画面に顔を近づけたままの状態で作業を行うと、疲労の原因や視力低下の原因となることがあります。

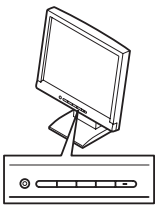
ディスプレイの角度を調節する

ディスプレイの多くは上下、左右の角度調節ができるようになっています。まぶしい光が画面に映り込むのを防いだり、表示内容を見やすくしたりするためにディスプレイの角度を調節することは、たいへん重要です。角度調節をせずに見づらい角度のまま作業を行うと『よい作業姿勢』を保てなくなりすぐに疲労してしまいます。ご使用の前にディスプレイを見やすいよう角度を調整してください。



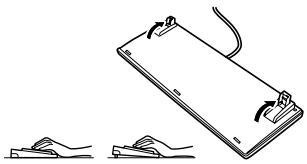
画面の明るさ・コントラストを調節する

ディスプレイは明るさ（ブライトネス）・コントラストを調節できる機能を持っています。年齢や個人差、まわりの明るさなどによって、画面の最適なブライトネス・コントラストは異なりますので、状況に応じて画面を見やすいように調節してください。画面が明るすぎたり、暗すぎたりすると目に悪影響をもたらします。



キーボードの角度を調節する

オプションのキーボードには、角度を変えることができるよう設計されているものもあります。入力しやすいようにキーボードの角度を変えることは、肩や腕、指への負担を軽減するのにたいへん有効です。



機器の清掃をする

機器をきれいに保つことは、美観の面からだけでなく、機能や安全上の観点からも大切です。特にディスプレイの画面は、ほこりなどで汚れると、表示内容が見にくくなりますので定期的に清掃する必要があります。

疲れたら休む

疲れを感じたら手を休め、軽い体操をするなど、気分転換をはかることをお勧めします。

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本製品は、強力なパワーと最新のアーキテクチャを採用した次世代を担うコンピュータです。そのポテンシャルはクライアントサーバシステムを構築するワークステーションPCとしても十分な能力を持ち、高速な処理と高い信頼性を提供します。

本装置の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解ください。

本書について

本書は、本製品を正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。セットアップを行うときや日常使用する上で、わからないことや具合の悪いことが起きたときは、取り扱い上の安全性を含めてご利用ください。
本書は常に本装置のそばに置いていつでも見られるようにしてください。

本書は、Windowsなどのオペレーティングシステムやキーボード、マウスといった一般的な入出力装置などの基本的な取り扱いについて十分な知識を持ったユーザーを対象として記載されています。

本文中の記号について

本書では巻頭で示した安全にかかわる注意記号の他に3種類の記号を使用しています。それぞれの記号と意味をご理解になり、装置を正しくお取り扱いください。

重要	装置の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。
チェック	装置やソフトウェアを操作する上で確認をしておく必要がある点を示します。
ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

本書の構成について

本書は4つの編から構成されています。それぞれの編では次のような説明が記載されています。なお、巻末には索引があります。必要に応じてご活用ください。

重要

「使用上のご注意」をはじめにご覧ください

本編をお読みになる前に必ず本書の巻頭に記載されている「使用上のご注意」をお読みください。「使用上のご注意」では、本製品を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。

第1編　導入編

本装置を導入するにあたり知っておいていただきたい情報とお使いになられるまでのセットアップの手順について説明しています。ここで説明する内容や手順を守って正しく本装置をお使いになるシステム環境へ導入してください。

第2編　ハードウェア編

本装置のハードウェアに関する説明をしています。各部の名称やその機能、設置にふさわしい場所に関する説明、オプションの取り付け手順、BIOSセットアップユーティリティの操作方法について知りたいときに参照してください。

第3編　ソフトウェア編

本装置に添付のソフトウェアについてその機能や使用方法について説明しています。ここで説明する内容に従って正しくお使いください。

第4編　運用・保守編

本装置を運用する上で知っておいていただきたい情報が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときは、本装置の故障を疑う前に参照してください。

本書について

ユーザーズガイドおよび添付のDVD-ROMに収められているオンラインドキュメントの一部は、Express5800シリーズのホームページからダウンロードすることができます。

http://support.express.nec.co.jp/workstation/

本書に記載の「光ディスクドライブ」について

本装置には購入時のオーダーによって以下の光ディスクドライブが標準で装備されています。本書ではこれらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

- DVD-ROMドライブ
- DVD Super MULTIドライブ

ドライブのソフトウェア上の操作（例えばCD-Rへの書き込みなど）については本装置に添付されている別冊の説明書を参照してください。

なお、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。

付属品の確認

梱包箱の中には、本装置以外にいろいろな付属品が入っています。添付の「スタートアップガイド」、または「使用上のご注意」に記載されている添付品を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

重要

付属品について

- 添付品はセットアップをするときやオプションの増設、装置が故障したときに必要となりますので大切に保管してください。
- 添付品の「EXPRESSBUILDER」は、紙封筒に包装されています。パッケージの構成につきましては、紙封筒内にある「EXPRESSBUILDER」の構成品表を参照してください。また、「EXPRESSBUILDER 」DVDを紛失し、再購入を希望されるときは、販売店へご相談ください。
- オペレーティングシステムに添付のソフトウェア登録カードは、所定事項をご記入の上、必ず投函してください。
- リムーバブルメディアが添付されている場合は、リムーバブルメディアのバックアップをとってください。また、添付のディスクをマスタディスクとして大切に保管し、バックアップディスクを使用してください。
- 添付のリムーバブルメディア、またはDVD/CD-ROMは使用方法を誤るとお客様のシステム環境を変更してしまうおそれがあります。使用についてご不明な点がある場合は、無理な操作をせずにお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

第三者への譲渡について

本装置または、本装置に添付されているものを第三者に譲渡（または売却）するときは、次の注意を守ってください。

- **本装置について**

  第三者へ譲渡（または売却）する場合には、装置に添付されている説明書一式（本書も含む）を一緒にお渡しください。

重要

ハードディスクドライブ内のデータについて

譲渡する装置内に搭載されているハードディスクドライブに保存されている大切なデータ（例えば顧客情報や企業の経理情報など）が第三者へ漏洩することのないようにお客様の責任において確実に処分してください。

Windowsの「ゴミ箱を空にする」操作やオペレーティングシステムの「フォーマット」コマンドでは見た目は消去されたように見えますが、実際のデータはハードディスクドライブに書き込まれたままの状態にあります。完全に消去されていないデータは、特殊なソフトウェアにより復元され、予期せぬ用途に転用されるおそれがあります。

このようなトラブルを回避するために市販の消去用ソフトウェア（有償）またはサービス（有償）を利用し、確実にデータを処分することを強くお勧めします。データの消去についての詳細は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。
なお、データの処分をしないまま、譲渡（または売却）し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

- **添付のソフトウェアについて**

  添付のソフトウェアを第三者に譲渡（売却）する場合には、以下の条件を満たす必要があります。

  - 添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡した側は一切の複製物を保持しないこと
  - 各ソフトウェアに添付されている『ソフトウェアのご使用条件』の譲渡、移転に関する条件を満たすこと
  - 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、インストールした装置から削除した後、譲渡すること

消耗品・装置の廃棄について

- 本装置およびハードディスクドライブ、リムーバブルメディア、DVD/CD-ROMやオプションのボード、バッテリなどの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。なお、装置添付の電源ケーブルにつきましても、他装置への転用を防ぐため、本装置と一緒に廃棄してください。

重要

- **本装置のマザーボード上にあるバッテリの廃棄（および交換）についてはお買い求めの販売店または保守サービス会社までお問い合わせください。**
- **ハードディスクドライブやバックアップデータカートリッジ、リムーバブルメディア、その他書き込み可能なメディア（CD-R/CD-RWなど）に保存されているデータは、第三者によって復元や再生、再利用されないようお客様の責任において確実に処分してから廃棄してください。個人のプライバシーや企業の機密情報を保護するために十分な配慮が必要です。**

- 本装置の部品の中には、寿命により交換が必要なものがあります（冷却ファン、本装置内蔵のバッテリ、内蔵光ディスクドライブなど）。装置を安定して稼働させるために、これらの部品を定期的に交換することをお勧めします。交換や寿命については、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にご連絡ください。

装置の輸送について

本体およびオプションなどには、リチウム金属電池あるいはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウム電池の輸送に関しては、航空・海上輸送規制が適用されますので本体およびオプションの航空機、船舶等での輸送については、お買い求めの販売店、または保守サービス会社へお問い合わせください。

目 次

⚠ **使用上のご注意（必ずお読みください）** iii
安全にかかわる表示について iii
本書と警告ラベルで使用する記号とその内容 iv
安全上のご注意 v
全般的な注意事項 v
電源・電源コードに関する注意事項 vi
設置・装置の移動・保管・接続に関する注意事項 viii
お手入れ・内蔵機器の取り扱いに関する注意事項 ix
運用中の注意事項 xi
警告ラベルについて xii
取り扱い上のご注意 xiii
Windows 7/Windows Vista使用時の留意 xv
事項 xv
健康を損なわないためのアドバイス xvi

はじめに xvii

本書について xvii
本文中の記号について xvii
本書の構成について xviii
本書について xviii
本書に記載の「光ディスクドライブ」について xix

付属品の確認 xx

第三者への譲渡について xxi

消耗品･装置の廃棄について xxii

装置の輸送について xxii

1 導入編

知っておきたいこと 2
装置外観 2
特 長 3
本体管理 4
ストレージ管理 5
電源管理 6
ネットワーク管理 6

導入にあたって 7
システム構築のポイント 7
システムの構築・運用にあたっての留意点 8
出荷時の状態を確認しましょう 8
電源を入れる前に 9
① ハードウェアのセットアップ 9
② オペレーティングシステムのセットアップ 9
③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続 9
④ 障害処理のためのセットアップ 10
⑤ 管理ユーティリティのインストール 10
⑥ システム情報のバックアップ 10
ネットワーク構築のポイント 10
UPS接続時のポイント 11

ストレージ機能構築のポイント 11

お客様登録 12

セットアップ 13
1 EXPRESSBUILDERがサポートしているサービスパック 13
2 EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード 14
3 ハードウェアのセットアップ 15
4 オペレーティングシステムのセットアップ 16
セットアップの手順 16
Windows 7 Professionalの場合 16
Windows Vista Businessの場合 18
Windows XP Professionalの場合 19
デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ 21
Windows 7 Professionalの場合 21
Windows Vista Businessの場合 26
Windows XP Professionalの場合 34
システムのアップデート 43
アップデート手順 44
5 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続 45
6 障害処理のためのセットアップ 46
メモリダンプ（デバッグ情報）の設定 46
Windows 7 Professionalの場合 46
Windows Vista Businessの場合 52
Windows XP Professionalの場合 57
ユーザーモードプロセスダンプの取得方法 61
7 管理ユーティリティのインストール 64
8 システム情報のバックアップ 65
9 リカバリファイルの退避 66
リカバリファイルの退避手順 66
リカバリファイルについて 71

再セットアップ 72
再セットアップ可能なOSについて 72
再セットアップ方法 72
シームレスセットアップ 74
セットアップの前の確認事項について 75
Windowsファミリについて 75
BIOSの設定について 75
注意すべきハードウェア構成について 75
システムパーティションのサイズについて 77
サービスパックの適用について 81
セットアップの流れ 82
セットアップの手順 83
Windows 7 Professionalの場合 83
Windows Vista Businessの場合 93
Windows XP Professionalの場合 102

応用セットアップ 111
シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合 111
マニュアルセットアップ 112
論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順 113
再セットアップ手順 113
ドライブ文字の修正手順 115

2 ハードウェア編

各部の名称と機能 118
装置前面 118
本体背面 120
装置内部 122
マザーボード 123
ランプ表示 124
POWER/SLEEPランプ 124
ハードディスクドライブ/光ディスクドライブアクセスランプ 124
LINK/ACTランプ 124
1000/100/10ランプ 125

設置と接続 126
設　置 126
縦置きの場合　ースタビライザの取り付け/取り外しー 127
横置きの場合 128
接　続 129
インタフェースケーブル 130
本体前面 130
本体背面 131
電源コード 132

基本的な操作 133
電源のON 133
POSTのチェック 134
電源のOFF 136
省電力モードの起動 136
光ディスクドライブ 137
使用上の注意 137
使用するディスクについて 138
ライティングソフトウェアをインストールする前に 139
OSのクリアインストールをする前に 139
ファームウェアのバージョンアップについて 139
音楽CDの再生について 139
ディスクのセット 140
ディスクの取り出し 141
ディスクが取り出せない場合の手順 141
注意事項 142
記録データの補償について 142
ディスクの取り扱いについて 142

デュアルディスプレイ(クローン・拡張デスクトップ)の設定方法 143

内蔵オプションの取り付け 146
安全上の注意 146
静電気対策について 147
取り付け/取り外しの準備 148
取り付け/取り外しの手順 149
ルーフカバー 149
取り外し 149
取り付け 150
3.5インチハードディスクドライブ 151
取り付け 152
取り外し 156
オンボードのRAID コントローラを使用する場合（SATA） 159
ケーブル接続 160
PCIボード 161

取り付け 162
取り付け後の設定 164
取り外し 164
グラフィックスアクセラレータボード 165
取り付け 165
取り付け後の設定 167
取り外し 167
DIMM 169
取り付け 169
取り外し 170

BIOSのセットアップ 172
システムBIOS（SETUP） 172
起　動 173
キーと画面の説明 173
設定例 174
Main 177
Advanced 179
Security 187
Boot 191
Exit 200

リセット 202
リセット 202
強制電源OFF 202

割り込みラインとI/Oポートアドレス 203

RAIDコンフィグレーション 205
RAIDレベルの選択 205
ハードディスクドライブの取り付け 206
RAIDの有効化 206
RAIDユーティリティの起動と終了 207
ユーティリティの起動 207
ユーティリティの終了 208
メニューツリー 208
操作手順 210
Configurationの新規作成/追加作成 210
マニュアルリビルド 214
ホットスペアの設定 215
整合性チェック 216
その他 217
LSI Software RAID Configuration UtilityとUniversal RAID Utility 218
用語の差分について 218
管理番号の差分について 218
バックグランドタスクの優先度（Rate）の設定値の差分について 219

AMT設定手順 220
AMT ENABLE設定手順 220
BIOSセットアップユーティリティの設定手順 220
ME BIOSメニュー［ENABLE］設定手順 220
AMT DISABLE設定手順 225
ME BIOSメニュー［DISABLE］設定手順 225
ME BIOS Extension標準メニュー 229
ME BIOS Extension MAINメニュー 229
「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」メニュー 229
ME BIOS Extension RAIDメニュー 236
ME BIOS Extension MAINメニュー 236
「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」メニュー 236

3 ソフトウェア編

添付のDVDについて 244
DVD媒体読み込み機能のない管理PCを使用したいとき 245

EXPRESSBUILDER 246
各メニューの起動について 246
オートランで起動するメニュー 249

ExpressPicnic 250
パラメータファイルの作成 250

本体用バンドルソフトウェア 261
ESMPRO/ServerAgent（Windows版） 261
インストール前の準備 261
インストール 262
インストール後の確認 263
エクスプレス通報サービス/
エクスプレス通報サービス(HTTPS) 264
セットアップに必要な契約 264
Universal RAID Utility 265
カスタムインストールモデルでのセットアップ 265
シームレスセットアップを使用したセットアップ 265
Universal RAID Utilityのセットアッププログラムを使用した
セットアップ 265
イージーコンフィグレーション機能 266

管理PC用バンドルソフトウェア 267

4 運用・保守編

日常の保守 270
アラートの確認 270
バックアップ 270
クリーニング 271
本体のクリーニング 271
光ディスクドライブのクリーニング 272
DVD Super MULTIドライブのクリーニング 273
クリーニング時期 273
クリーニング方法 273

システム診断 275
システム診断の内容 275
システム診断の起動と終了 275

障害時の対処 278
障害箇所の切り分け 278
エラーメッセージ 279
管理アプリケーションからのエラーメッセージ 280
トラブルシューティング 281
本体について 281
Windowsについて 285
メディア（CD/DVD）について 294
EXPRESSBUILDERについて 298
シームレスセットアップについて 299
ExpressPicnicについて 301

オートランで起動するメニューについて.....301
ESMPROについて.....302
RAIDシステム、RAIDコントローラについて.....302
オプションLAN ボードについて.....303
障害情報の採取.....304
イベントログの採取.....304
構成情報の採取.....305
ユーザーモードプロセスダンプ（ワトソン博士の診断情報）の採取 306
メモリダンプの採取.....306
システムの修復.....307
Windows 7の場合.....307
Windows Vistaの場合.....307
Windows XPの場合.....307

保守ツール.....308
保守ツールの起動方法.....308
保守ツールの機能.....310

移動と保管.....312

ユーザーサポート.....313
保証について.....313
修理に出される前に.....314
修理に出される時は.....314
補修用部品について.....314
保守サービスについて.....315
情報サービスについて.....316
付録A　仕　様.....317
付録B　保守サービス会社網一覧.....318

索　引.....323

メ　モ

オンラインドキュメントについて

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには次のオンラインドキュメントが収められています。必要に応じて参照してください。

- ユーザーズガイド
- Windows 7 Professionalインストレーションサプリメントガイド*
- Windows Vista Businessインストレーションサプリメントガイド*
- Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド*
- ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド
- ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド
- Universal RAID Utility Ver2.3 ユーザーズガイド
- エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス（HTTPS）インストレーションガイド

* 通常は「EXPRESSBUILDER」の「シームレスセットアップ」を使ったインストールをお勧めします。